

## 公共交通機関のバリアフリー化の更なる推進を求める意見書

本格的な高齢社会を迎えたことで、高齢者が安心して生活を送りながら、社会・経済活動にも積極的に参加できる社会の構築がますます求められています。また、障害者が必要なサービスを楽しみながら、自立し、安心して暮らすためにも、公共施設等のバリアフリー化が喫緊の課題です。

政府は、これまで平成18年制定の「バリアフリー新法」に基づき、1日の平均利用者数が5,000人以上の全ての鉄道駅やバスターミナルなどの旅客施設について、平成22年までにバリアフリー化することを目標に取り組みを進めてきました。しかしながら、例えば、駅における段差解消の進捗率は、約77%(平成22年3月末現在)にとどまっています。

よって、江戸川区議会は、政府に対し、政府、地方公共団体、事業者の連携強化を図りつつ、地域のニーズに対応した公共交通機関のバリアフリー化をさらに推進するよう、下記の事項の実施を強く求めます。

### 記

- 1 新たな政府目標を早急に定め、地方公共団体、事業者の理解を得るよう周知徹底に努めること。
- 2 市町村によるバリアフリー基本構想の作成がさらに進むよう、未作成地域を中心に、実効性のあるよりきめ細かい啓発活動を行うこと。
- 3 地方公共団体の財政状況に配慮し、補助等の支援措置を充実すること。
- 4 鉄道駅のホームにおける転落防止効果が期待されるホームドア、可動式ホーム柵の設置に関する補助を充実すること。
- 5 身体障害者や要介護者など移動制約者の福祉輸送ニーズに対応した福祉タクシーやノンステップバスの普及に努めること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

平成23年3月17日

江戸川区議会議員 須賀 精二

内閣総理大臣、国土交通大臣 あて